

## 令和2年度 病害虫発生予察情報(美濃地域) 10月予報

### 【 水稲 】

#### トビイロウンカ \*病害虫発生予察注意報第7号(R2.9.25付)発表

9月中旬以降、水稲ほ場において本虫による坪枯れ被害が急激に拡大しています。坪枯れが確認されたほ場の周辺では農薬の使用時期に注意しながら早急に防除してください。

### 【 トマト・キュウリ 】

#### 虫媒ウイルス病

トマトではタバココナジラミが黄化葉巻病のウイルスを、キュウリではミナミキイロアザミウマが黄化えそ病のウイルスを媒介します。今後は気温の低下とともに、コナジラミ類が施設内へ侵入すると予想されます。施設内をよく観察し、発病株を確認した場合は、伝染源となるため早く取り除き、それぞれの害虫に効果の高い薬剤によって防除を実施してください。

### ○主な病害虫の発生時期及び防除時期(10月)

<露地及び雨よけ(夏秋)>

作物	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半月	2半月	3半月	4半月	5半月	6半月	
水稲	トビイロウンカ	多							・ 株元へ丁寧に薬剤散布する ・ 防除時は収穫前日数に注意する。
	防除適期		(坪枯れを確認したら、早急に防除を行う)						
かき	カメムシ類	多							・ 園への突発的な飛来に注意する。 ・ 防除時は収穫前日数に注意する。
	防除適期		(ほ場で確認したら速やかに行う)						
トマト	灰色かび病	並							・ サイドビニール被覆を行うと、本病の発生が助長されるため、発生に注意する。
	防除適期		(ほ場で確認したら速やかに行う)						
野菜類	ハスモンヨトウ	多							・ 薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	アザミウマ類	少							
	アブラムシ類	やや少							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						

<施設(冬春)>

イチゴ	ハダニ類	並							・ <b>炭疽病</b> 発病株はただちにほ場外へ除去する。
	炭疽病	並							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						
トマト	コナジラミ類	やや少							・ <b>コナジラミ類</b> 薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	灰色かび病	少							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						
キュウリ	褐斑病	少							・ <b>褐斑病</b> 罹病性品種では発生に注意する。 ・ <b>うどんこ病</b> 発病がみられるほ場では早期に防除を行う。
	うどんこ病	少							
	べと病	少							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃及び東濃地域

注2) 調査品種：かき(富有)、イチゴ(濃姫及び美濃娘)、トマト(夏秋：桃太郎ギフト及び麗夏、冬春：桃太郎ネクスト(葉かび病抵抗性品種))、キュウリ(まりん：うどんこ病・褐斑病・べと病耐病性品種)

### ハスモンヨトウ

防除所が設置するフェロモントラップへの8月以降の誘殺数は、平年を上回る地点が多くなっています(6か所のうち4か所)。向こう1か月の気温は「高い」と予想されているため、本虫の発生に好適な条件がしばらく続くと考えられます。

幼虫は齢期が進むと薬剤の効果低下するため、若齢幼虫の防除に重点を置いてください。

大豆では、新たな白変葉等、食害を確認したら、ただちに防除を実施してください。

施設栽培では、防虫ネットを張って成虫の侵入を防ぐとともに、卵塊を見つけ次第除去してください。

### =施設栽培の病害虫について=

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

### 東海地方1か月予報(名古屋地方気象台 9月24日発表)

向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並〜少なく、日照時間は平年並〜多いと予想されます。天気は数日の周期で変わってでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他にも病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

※10/1以降、上記のアドレスに変更となります

〒501-1152 岐阜市又丸 729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



病害虫防除所  
トップページ  
QRコード